

大量の救援物資が子供達へ届けられる

自動車流通市場研究所の中尾聡理事長が報告

本紙前号で、コロナ禍において「給食」が止まったことで空腹にあえぐ子供達の窮状をお伝えしたところ、全国の業界関係者から大量の救援物資が届けられた。

これは、栃木県において、貧困により、居場所のない子供達の支援活動をしているNPO法人自動車流通市場研究所の中尾聡理事長が明らかにした。

中尾理事長は「この状況下では誰しも厳しいはずだが、前回の記事を見た読者の皆様から、瞬く間に大量の救援物資が届けられた。驚きとその温かい支援に対して、感謝の念に堪えない」と話す。

救援物資のなかには、滋賀県産のお米100キロや、除菌液18リットル×3缶、子供用マスクなども含まれていたという。

中尾理事長は、これら救援物資を速やかに小山市内にある施設「おひさま」（高橋弘美理事長）と「ピリプ」（栗本孝雄理事長）に届けたことも報告した。

また、この活動を知ったJ.U.栃木の高谷昭彦会長・理事長ら業界関係者も、栃木市にある同様の施設「たんぼぼ」（石河不砂理事長）へ大量の物資を届けるなど、支援の輪が広がっていることもあわせて伝えている。



小山市の施設「おひさま」に届けられた救援物資